



令和8年 3月2日

目黒区立ひもんや保育園

園庭で遊んでいた0歳児の子どもが、縄跳びを持ってきて両手で持ちその場でピョンピョンと跳んでいます。“どう？すごいでしょ？”というような表情で傍にいる担任を見つめている後ろ姿を微笑ましく感じました。5歳児がテラスに作った「秘密基地」にも乳児クラスの子もたちも当たり前のように入り一緒に遊んでいます。この園庭でたくさん子どもたちが昼の兄弟のように自然に関わりながら、やりたいこと、不思議だなと思ったことなど夢中になって遊ぶ笑顔を見てこられたことが思い出され、幸せな気持ちになりました。

今月6日には、最後の卒園児となる子どもたちを送り出します。昭和36年から64年間のあゆみのなか、2674人の子どもたちがひもんや保育園を卒園しました。思い返すと、子どもたちはいつも私たちにいろいろなことを教えてくれたように思います。ひとりひとり違って良いこと、やりたいことが叶う環境があれば大人が思いもよらないような発想で自分たちの力を発揮できること…その子にしかない個性や輝きを見て過ごす毎日は本当に楽しい日々でした。保護者の皆様にもご心配やご迷惑をおかけすることも多々あったのではないかと思います。至らぬ点があったかもしれませんが、いつも私たちの保育を温かく見守っていただきお声がけいただいたこと、感謝の思いでいっぱいです。

これからも子どもたちひとりひとりが自分らしく、ありのままの自分を出表できるように見守り続けていきたいと思ひます。最後の1か月となりましたが、子どもたちも保護者の皆様もそして私たち職員も、ドキドキワクワク楽しい日々を送れることを願っています。

3月の行事

卒園式（5歳児クラス）

オリエンテーリング（5歳児クラス）

お別れ遠足（3・4・5歳児クラス）

お別れ会（全園児）

中旬 身体計測・避難訓練



はる

なつ

一年のおもいで



あき



ふゆ



こんなに大きくなりました

つくし組

散歩先に着くと、嬉しそうに駆け出していく子どもたちです。足元は落ち葉でフワフワ、頭の上には枝もあり子どもにとってはちょっとしたジャングルの様な所にもどンドン自分から入っています。足元がでこぼこした不安定な所を何度も歩く子どもたちを、“一人で出てこられるかしら？”と反対側の出口で待っていると、段差があるところはしっかりと足をあげて跨いで歩いたり、目の前に枝が垂れ下がっているところはかがんで避けて通ったりと、保育士が何も言わなくても自分で考えています。そして「ばあ！」と得意気な表情でニッコリ笑いながら出て来て、また何度も何度も探検を楽しんでいます。子どもたちの小さな発見や挑戦を見守り、時には同じ目線で一緒に楽しむことを大切にしてきました。自分の興味関心のあるものに自分から向かい、のびのびと楽しむ姿や、保育士に“出来たよ”“見て”と送る視線が合った時の子ども達のキラキラした笑顔を見るたびに成長を感じます。

すずらん組

ボウルにチェーンリングを入れて「スパゲティーできたよ」と保育士を誘ってくれたので「できたて美味しそう」と食べようとする「あついよ」と声をかけてくれます。「ふうふう」と冷まし「あちち」と熱がると「ジュースあるよ」とスパゲティーに見立てていたはずのチェーンリングの中から紫色を選んで「ぶどうジュースです」とスパゲティーからジュースに変わってごちそうしてくれます。白はカルピス、色を混ぜてミックスジュースと次々にジュースのボトルを並べると「ジュース屋さんです」と始まりました。お客さんになった保育士と友達が買いに行くと、スポンジ棒をストローに見立てて差して渡してくれます。この一年間子どもたちのつばきや仕草などを汲みとって、子どもたちの発想そのままを一緒に面白がってきました。保育士とのやりとり中で言葉も広がり、日々の生活や経験したことを思い出しながら再現して遊ぶ楽しさを感じている子どもたちです。

ちゅーりっぷ組

ウレタン積み木などを組み合わせて「オオカミが来るからレンガのお家を作ろう」とお家作りが始まりました。そこに他の子が「入れて」と来ると「いいよ、危ないから早く入って」「どうしよう（オオカミが）入ってきちゃう」「鍵をかけよう」と2、3人でお家に入って隠れていると、今度はままごとが始まります。お家の中ではお父さんやお母さん役になって、猫ちゃんにご飯を作ってあげる等それぞれが役になり切って遊んでいます。そのうち大変、お熱が出ちゃった」「お薬持ってくるね」とお医者さんごっこになり「チクするよ。すぐだから」「はいもう大丈夫よ。これどうぞ」と頑張ったねシールを渡すやりとりをしています。自分の体験したことや誰かにしてもらったことを仕草や口調を真似ながらなりきって遊んでいます。子どもたちがやりたいことを叶えられるよう保育士も一緒にたくさん遊んできました。自由に表現し遊び、気持ちが十分に受け止められることで、今ではそれぞれのイメージした遊びを友達とやり取りしながら”一緒に楽しい”という気持ちが増えています。



たんぽぽ組



園庭に出ると一人の子が点々と並んでいたタイヤの上を渡って遊んでいます。そのうちに、ふと何か思いついたようで、せっせとタイヤを運び始めました。コツコツと並べたり、重ねたり、ベンチと繋げたりしてやっと道が出来上がりました。「先生見てね」と渡って最後にジャンプして得意気です。すると、なにやら楽しそうなものが出来上がったのを見て他の子も「やっていい？」と一緒に遊び始めました。遊んでいるうちに、またタイヤを運んできて新たな道ができると「こっちでも遊んでいいですよ」と知らせてくれています。それを見て他の子も「ぼくもここに作ろ」と同じように作ろうとしたのですが、できると自分がイメージしたものとは違ったようで「あれ？なんだか大きな椅子みたいのできちゃった。でもいい感じ」とすっぽり座って満足気です。友達が楽しそうに遊ぶ姿を見ると「おもしろそう」「やってみたい」と興味も持ちすぐに一緒に遊ぶ子どもたちです。友達とイメージを共有したりそれぞれ自分の発想も形にしたりしながら遊ぶ中で友達との関りも広がっています。ときには思いが違ふときもありますが、保育士や友達と一緒に考えたり、思いを伝え合ったりしてさまざまな遊びを楽しんできた一年でした。



こすもす組



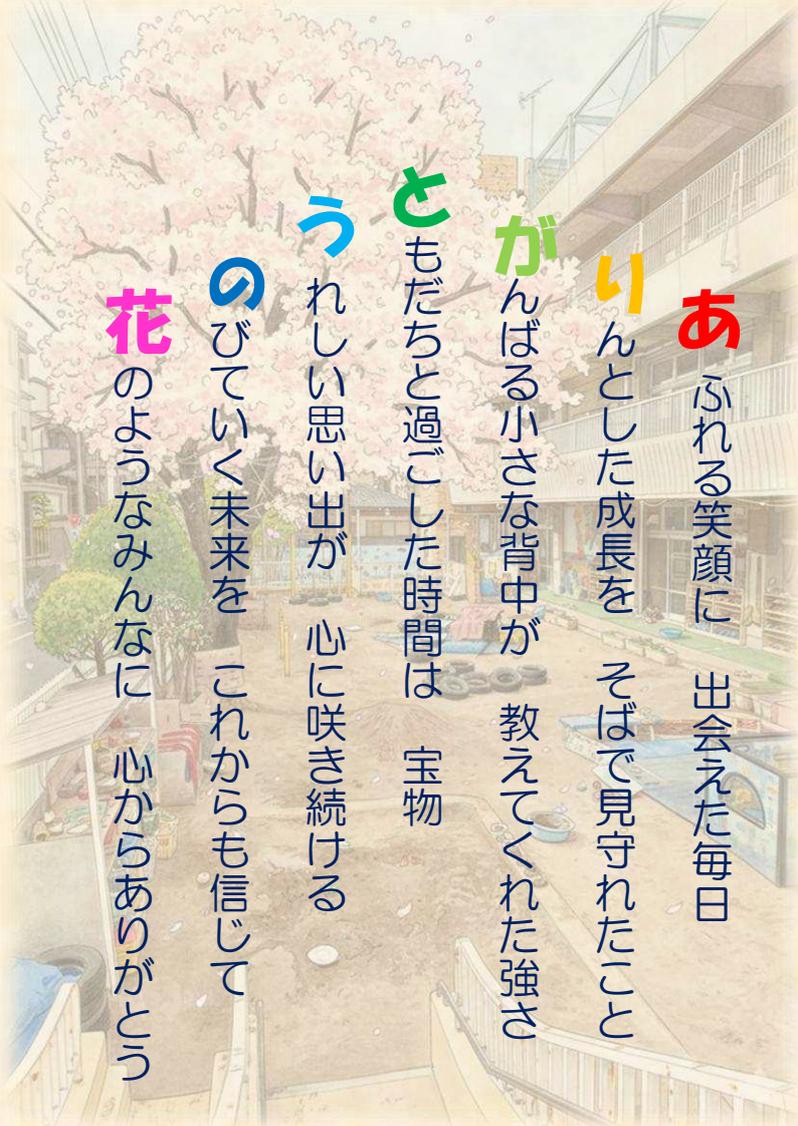
鬼ごっこの鬼決めの後、一人の子がガックリ肩を落としてその場から離れて座りこんでしまいました。その姿に気付く「どうしたの？」とそっと声をかける子が現れ「鬼やりたかったの？」「…」「悔しいの？」「…」と思いを聞き取ろうとします。「言わなきゃわからないよ」「何か言ってよ」と根気強く声を掛けると「鬼、二人がいい」とボソボソと答えてくれています。すると「一緒に言おう」と手を取り鬼の所まで戻り「ちょっと聞いてあげて」とつないでもらうと、小さな声で「鬼は2人が良かった」と伝えることが出来ました。すかさず「嫌だ」「やっぱり1人がいい」と意見が飛び交い「次からにしようよ」という提案に押し切られる形になったのですが、自分の思いを聞いてもらったことで「わかった」と納得して遊びに参加することができました。この1年思いがぶつかり合い涙し、たくさんの葛藤を経験してきた子どもたちです。友達の思いに気付く耳を傾けたり、話し合いで折り合いをつけたりしながら遊べる場面も増えてきたことに成長を感じます。



ひまわり組



子どもたちの手作り秘密基地は、壊れては直しを繰り返しながら一か月ほど続いています。大きな壁が倒れた時「外だと風で壊れちゃうよ」「ホールにしよう」と自分たちで引っ越しを始めました。ホールに集まると「みんな集まって」と声が上がると「次はどんな形にする？」とい話し合いが始まります。作りたい家のイメージが三つに分かれ「全部くっつけちゃおうよ」「エートンネル付きがいいもん」「私はアスレチックがいい」と思いが飛び交います。すると「どうしたいの？」「順番に言ってみようよ」と他の子が間に入り「迷路みたいにする？」「道でつなげよう」「滑り台もつけたい」とアイデアが広がっていきます。「じゃあ秘密基地アスレチック迷路にしよう」と決まると「僕はここ作る」「私はトンネルと山にする」と役割を決めながら巧技台やマットを動かし始めます。思いがぶつかっては立ち止まり、また話し合い、時には「まあいいか」と笑い合いながら次へ進んでいます。夢中で道具を運び、何度も組み替え試し続ける姿に「一緒にやりたい」と仲間が増えていきました。自分の思いを伝えられるようになったからこそ、友達の思いも聞けるようになり、一緒に作るからこそイメージがさらに膨らんでいきます。仲間と作り上げる楽しさがさらに遊びを大きくしていることが伝わってきます。



あ ふれる笑顔に 出会えた毎日

い んとした成長を そばで見守れたこと

が んばる小さな背中が 教えてくれた強さ

さ もたちと過ごした時間は 宝物

う れしい思い出が 心に咲き続ける

の びていく未来を これからも信じて

花 のようなみんなに 心からありがとう